

現在の差別

3月11日(日)倉吉体育文化会館で2011年度差別事件報告・人権確立をめざす鳥取県民集会」が開催され2011年に県内で起こった差別事件の報告と現在起きているインターネットによる差別事件の報告がありました。そして「鳥取県人権意識調査結果からみられる課題」と題して国歳眞臣さん(鳥取大学名誉教授)の講演があり「現在も差別意識は多く存在している、差別を残り再生産されている原因に忌避意識がある」と指摘がありました。

平成23年度鳥取県人権意識調査(抜粋)

Q. 人々の意識の中に差別が存在していると思うのは？

- A. 同和地区の人々に関する事 (56.2%)
- 障がい者に関する事 (46.3%)
- 在日韓国・朝鮮人に関する事 (25.6%)
- 女性に関する事 (24.8%)
- 刑を終えて出所した人に関する事 (23.8%)

以下省略

Q. あなたが、家を購入したり、マンションを借りたりするなど住宅を選ぶ際に、同和地区にある物件を避けることがありますか。

- A. 避ける (18.8%)
- こだわらない (38.6%)
- わからない (38.4%)
- その他 (2.0%)
- 無回答 (2.2%)

Q. 自分の子どもが結婚するときに、家柄、親の職業や社会的地位などについて、親の立場から相手の身元調査を行うことはやむを得ないと思いますか。

- A. そう思う (7.0%)
- どちらかと言えばそう思う (24.8%)
- どちらかといえばそう思わない (22.0%)
- そう思わない (28.7%)
- どちらともいえない (12.9%)

Q. インターネットによる人権侵害を解決するために必要と思うものは？(複数可)

- A. 他人を誹謗中傷する表現・落書きに対する罰規定を設け、監視・取り締まりを強化する (56.0%)
- プロバイダーに対し人権侵害と思われる情報の公開停止・削除を求める (54.3%)

以下省略

「○○だと、思われたくない?」
「忌避意識」

たとえば、部落差別の場合、「自分や家族が部落だと思われたくない」と思う気持ちから「部落を避ける」忌避意識が存在している。「避ける」理由が「差別」であっても、そんな意識はないために、「差別」が再生産されているとは思っていない。つまり、部落に対する差別意識は、部落出身者が登場しない場面で、部落差別が起きている。

インターネット上での差別事象

倉吉市の下吉真二さん(部落解放同盟)が現在起こっている重要な人権問題としてインターネット上に鳥取県内の同和地区の地図が掲載されている差別事象を報告されました。この発端は鳥取ループと名のる人が2009年に県内の同和地区をインターネットのグーグルマップで掲載した。県や関係自治体、鳥取地方法務局、解放同盟などにより削除要請を行ってきたが聞き入れず、その後も範囲を広げて掲載している。現在、鳥取ループが掲載している差別地図

は、鳥取県・大阪府・滋賀県・長野県(別のブログ)など広範囲に及び、中には個別の家に印を打っている。この事象は2011年の部落解放研究全国集会(岐阜で開催)でも報告されている。

部落解放・人権政策確立要求鳥取県実行委員会は、2011年10月に法務大臣に対し「人権侵害救済法」の早期制定とインターネットにおける差別・人権侵害の防止を求める要請署名各自治体165枚と、個人15396人を提出するとともに、法の早期制定を強く要請しています。